

第5期県民生活審議会第10回総合政策部会（議事概要）

- 1 日時 平成15年12月16日（火）15：30～17：30
- 2 場所 兵庫県公館 3F 第二会議室（神戸市中央区）
- 3 参加者
- (1)委員 加藤部会長、今崎委員、奥村委員、北野委員、中瀬委員、松原委員、森委員、村上委員、門上委員、根岸部会長
- (2)県側 井筒県民政策部長、大鳥県民文化局長、十倉生活創造課長、植田消費生活室長ほか

4 内容

（地域プランナーの概念整理）

- ・プランナーの概念を整理する必要がある。「問題解決のデザイン」、「プランニング」、「参画と協働のデザイン」等の表現があるが、「プランニング」の概念は広く「ものをつくる」で、「デザイン」は「意思決定するプロセス」をいう。
- ・地域プランナーという個人なのか、仕事なのか、役職あるいはポストなのか整理すべきである。

（地域プランナーと地域づくり活動サポーターとの関係）

- ・地域プランナーとサポーターの役割を整理する必要がある。
- ・子育て、地域の魅力づくりなど、各県民局の課題を地域の人たちと話し合いながら、役割を考えていくというイメージである。
- ・地域づくり活動サポーターは、ともかく設置してみる地域プランナーである。再ネットワーク、つなぐ部分をもう一度やりなおすことで、活気のある地域ができるのではない。多様な地域を持っている兵庫県型の「つなぐ人」を置いて、実験をやってみたらよい。
- ・兵庫県では地域によって市町行政の形もちがうので、神戸市でのまち育てサポーターのしくみはそのまま使えない。

（地域プランナー・地域づくり活動サポーターと各種推進員等との関係）

- ・プランナーとかサポーターは地域で受け入れられるかが問題である。かえてそういう人たちがでてきたせいで、今までやっていた人がやる気をなくしたり、後ろにいつてしまうかもしれない。
- ・サポーターと、既存の地域の活動の関わりの整理が必要である。
- ・丹波の森研究所等、民間でも一生懸命やっているところがある。既存の活動も総合化しながらとりあげていく必要がある。今までの活動を継続しながら成長させていくという話を位置づけていくような施策を考えるべきである。
- ・社会福祉協議会のワーカーや、森づくり、環境、まちづくり、まちおこしなどで既に行われている活動との関係を書き込む必要がある。
- ・まちづくりアドバイザーやまちづくりコンサルタントとの棲み分けを書き込むべきである。
- ・何故今社会福祉協議会がうまくいかないのかという議論も必要である。

（情報を軸とした再整理）

- ・「人」については教科書的な書き方であるが、「組織」になると、ひょうごボランティアプラザの軌道修正を見せようという書き込みが見えてくる。「拠点」になると、施設を

改変しなければという書き込みとなり、レベルが違うので違和感がある。

- ・人が動くのは人と組織と拠点ではなくて、利害、関心、熱意である。それを捨象してしくみとしてのシステムを考えるのは教科書としてはよいが実際には難しい。

- ・拠点は、むしろ情報を活用する拠点として描けばよい。

- ・人、組織、拠点到共通するのは情報である。あちこちに情報の収集や、受発信の支援の記述が散らばってしまっている。特に拠点というとハード、場所ととらえがちだが、むしろ情報の拠点であるということの方がこれからは重要であるので、工夫して書き込むべきではないか。

- ・今回は、あまりコンセンサスや理解の深まっていないうちに事業の提言をせずに、生活創造、地域づくりを支えるには、情報がまず大事であるとし、そしてその情報をよりきめ細かく収集し、人に配ったりする結節点として、人と組織と拠点があるというシナリオにすべきではないか。

- ・情報以外にも社会資源の活用がある。社会資源をどう開発していくかということや、地域づくりを支え、進めていくために必要な手段として、人、組織、拠点があって、具体的にどういうものがあり、既存のものをどう活用したらよいか書くというシナリオにしてはどうか。

(情報とサポーターの役割)

- ・情報を収集して維持管理して更新していく仕事をサポーターがやればよい。そうすればサポーターの意味が分かる。多くの情報はいつ更新されたか分からないようなものが多く、メンテナンスする人が必要である。

- ・情報がいかに伝わりやすいかが、一番変革していくことにつながる。田舎の地域の中のリーダーに、届きやすい情報がどんどん届いてきて、それによって絶えず前向きに暮らしていけるようにすればよい。

- ・県民局単位にある程度役職・職種として、公募により地域プランナーを置き、区長、婦人会長と一緒に勉強しようという思いになり、レベルアップにつながるように、その地域プランナーが積極的に働きかけていく方向性など、地域プランナーとリーダーの接点を考えるべきである。

(わかりやすい表現)

- ・「ファシリテート」、「結節点」、「リンク」という言葉はわかりにくいので再検討すべきである。「サポーター」を使うなら注釈を書くべきである。

- ・市町が大きな役割を担う形を考える必要がある。

(提言に掲げる施策について)

- ・文教府、文化会館、生活科学センターが県民に分かりやすいよう、統一・一貫した形にすべきである。

- ・ひょうごボランタリープラザも創生塾も知っている人は少ない。県民がよく知っているものを提言の中で挙げるできで、挙げるならもっとPRすべきである。

- ・何もかも生活創造センターの機能に含めているが、長い間時間をかけてようやく男女共同参画が独立してきたのに、また後退させる印象がある。DV対策など独自の領域もある。

- ・生活創造センターの機能の分野の例示は、家庭を一番に書くべきである。